

グループ名	バリアフリーフェア2013実行委員会
提案名	バリアフリーフェア2013 ～からだのびのび、手と手をつなごう。 こころものびのび、こころをつなごう～



助成を受けて行った活動の時期及び内容

日時:9月28日(土)・29日(日)
場所:横浜ワールドポーターズ

来場者数 のべ700人

バリアフリーマーケット(イベントホールA)



様々な分野で活動する人たちが、それぞれ出展し、楽しんだ。子どもの来場者も多かった。参加団体は添付の当日プログラム参照。



マーケット特別企画「トークであそぼ」

コミュニケーション支援ツール「トーキングエイド for iPad」を中心に、普段使いのIT機器を紹介・体験するワークショップ



スペース和氣音(わきね)の体操ワークショップ(イベントホールB)

オリエンタル音楽のライブをバックに、身体も心もストレッチするワークショップ

CM動画コンテスト



横浜市民放送局
Yokohama-TV.com
info@yokohama-tv.com

とのコラボ企画

プレ企画として9月12日・13日。当日企画として28日
できた動画は、YoutubeにUPするとともに、NPOスク
エアWebサイト等から閲覧。当日会場でも放映した。



エリアマネジメントにおける効果

地域において様々な分野でのミッションを持って活動する人たちが障害者や高齢者、子どもその他のいわゆる福祉的分野を巻き込みながら交流することによって、新しい発見が生まれ、さらなる新しい展開が期待される。来場された方々にも、地域の様々な活動を楽しんで頂くとともに、「バリアフリー」のおもしろさや、バリアフリーのまち・横浜の魅力を発信する。また、バリアフリーフェアをきっかけとして、別の場でのネットワークも形成されているらしい。

今後の展望

- 継続的なフェアとして開催し続けることが大事
- 出展者数を増やしたり、出展形態を多様化することで、マーケット的性格をもっと打ち出す
- ステージ発表の希望者が増えつつある。その関係者ファミリーが「意外にマーケットが楽しかった」との感想を持ったようだ。このような、ゆるい形での参加を促したい。
- バリアフリーフェアのキャッチフレーズは、「身体の違いや、年齢や、国籍や、性別の違いの壁(バリア)を取り払って、みんなで楽しもう！」だが、現在、身体と年齢くらいにしか及んでいない。他の分野にも広げたい。
- フェアの運営を外に開くことで、資金の流れやPR方法を複数化させる。
- これまでは「来るだけ」だった出展者の中に、運営から関わってくれそうな人が出てきた。実行委員会で出展段階から関わる人を増やすとともに、準備過程を公開していくことが必要だと考えている。

収 支 決 算 書

団体名 バリアフリーフェア2013実行委員会

1 収入

項 目	金 額	説明 (負担者及び負担方法等)
交付された助成金 (A)	170,000	
参加費	50,000	
NPOスクエア連絡会で補填	47	
合 計	220,047	

2 支出 (助成金対象経費分)

項 目	数量 (単位)	単 価	金 額	説 明
事業委託 講師料	一式	125000	125,000	CM動画作成講座105000- [トークであそぼ]講師料 20000-
会場費 (A会場)	一式	47850	55329	看板 (パネル) 制作費、風船 用ヘリウム 入場プレゼント (復興協力)
交通通信費			12,000	
雑費			27,718	コピー代、web、チラシデザイ ン料 ほか
合 計 (B)			220,047	

3 決算後の助成金の額

【Aコース】

(1) (A) ≤ (B) の場合 (A) の額 ¥

(2) (A) > (B) の場合 (B) の額 ¥

【Bコース】

(1) (A) ≤ (B) × 4/5 の場合 (A) の額 ¥170,000.-

(2) (A) > (B) × 4/5 の場合 (B) × 4/5 の額 ¥176,038.-